

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
 担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道153号 <small>いなん</small> 伊南バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局	
起終点	自：長野県上伊那郡飯島町本郷 至：長野県駒ヶ根市赤穂	延長	9.2 km			
事業概要 一般国道153号伊南バイパスは、長野県上伊那郡飯島町本郷から長野県駒ヶ根市赤穂に至る延長9.2kmのバイパスであり、長野県からの権限代行を受け、交通渋滞の緩和、交通安全の確保、救急医療活動の支援や生活環境の改善を目的に計画された道路です。 平成24年度末迄に飯島町本郷から町道堂前線の2.4kmと駒ヶ根市赤穂市場割から駒ヶ根市赤穂の4.2kmについて暫定2車線開通済であり、交通渋滞の緩和や生活環境の改善に寄与しました。 残る区間の並行する現道等には線形不良箇所、冬期路面凍結箇所が存在するなど多くの課題があり、引き続き事業を推進することで、線形不良箇所の回避等の効果を見込んでいます。						
H9年度事業化	H9年度都市計画決定 (H一年度変更)	H10年度用地着手	H13年度工事着手			
全体事業費	412億円	事業進捗率	68%	供用済延長	6.6km	
計画交通量	14,000台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.1 (残事業) 2.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 108/473億円 (事業費：96/432億円) (維持管理費：12/41億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 232/997億円 (走行時間短縮便益：174/935億円) (走行経費減少便益：55/58億円) (交通事故減少便益：2.6/4.2億円)	基準年 平成25年		
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=2.0~2.2(交通量±10%) 事業費：B/C=1.9~2.3(事業費±10%) 事業期間：B/C=1.6~2.7(事業期間±20%) 【残事業】交通量：B/C=2.1~2.3(交通量±10%) 事業費：B/C=2.0~2.4(事業費±10%) 事業期間：B/C=2.0~2.3(事業期間±20%)						
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ②物流効率化の支援 ・現道等における、総重量25tの車両もしくはISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する。 ③都市の再生 ・市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりと連携あり。 ④国土・地域ネットワークの構築 ・日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる。 ⑤個性ある地域の形成 ・拠点開発プロジェクトを支援する。 ・主要な観光地(駒ヶ根高原等)へのアクセス向上が期待される。 ⑥安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設(伊那中央病院)へのアクセス向上が見込まれる。 ⑦災害への備え						

- ・緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する。
- ⑧地球環境の保全
- ・CO2排出量の削減が見込まれる。
- ⑨生活環境の改善・保全
- ・NO2排出量の削減が見込まれる。
 - ・SPM排出量の削減が見込まれる。
 - ・夜間騒音値の低減が見込まれる。
- ⑩他のプロジェクトとの関係
- ・上伊那地域ビジョンにて、交通の骨格を担う路線として位置づけられている。

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

関係する駒ヶ根市及び飯島町の首長、議員で構成される国道153号伊南バイパス建設促進期成同盟会から早期整備の要望を受けている。

知事の意見：

一般国道153号伊南バイパスにつきましては、複雑な地形に沿った現在のルートが解消されることによる安全性の向上、駒ヶ根、飯島の両市街地部の交通渋滞の解消に大きな効果があるものと期待しています。事業継続を図るとともに、積極的な予算確保と早期完成に向けた事業の推進を強く要請します。

事業評価監視委員会の意見

- ・「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・伊那谷特有の河岸段丘により、急激な起伏や急カーブ区間が多く存在。
- ・飯島町本郷地内や田切地内では、冬季路面凍結箇所が存在し、スリップ事故が発生。
- ・急カーブ区間では、搬送中の初期治療が困難であり、救急搬送に支障。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率は68%、用地進捗率は100%。
- ・今年度は上伊那郡飯島町飯島～上伊那郡飯島町田切（L=0.8km）の平成26年度の暫定開通に向けた橋梁工事等を実施。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・上伊那郡飯島町飯島～上伊那郡飯島町田切（L=0.8km）は、平成26年度の暫定開通を予定。
- ・上伊那郡飯島町田切～駒ヶ根市赤穂（L=1.8km）は、概ね10年程度の開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト削減に努めながら事業を推進する。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。